

関西大学幼稚園

2014 年度学校評価報告書



2015 年 3 月

目 次

2014 年度 関西大学幼稚園 学校評価（自己点検・評価）分析

1 本園の概要	1
2 今年度の教育活動状況	1
3 評価の実施にあたって	2
4 評価の分析	
(1) 保護者への働きかけ	4
(2) 小学校（初等部）との関連	8
(3) 子育て支援	10
(4) 施設・設備	13
(5) 園児募集	15
学校関係者評価委員会からの評価結果	16
「学校評価（自己点検・評価）報告書」に対する園長の意見書	18

【参考資料】

資料 1	2014 年度 関西大学幼稚園	実施対象者別アンケート結果比較一覧表
資料 2-1	2014 年度 関西大学幼稚園	保護者アンケート結果一覧表
資料 2-2	2014 年度 関西大学幼稚園	保護者アンケート詳細項目結果
資料 2-3	2014 年度 関西大学幼稚園	保護者アンケート
資料 3-1	2014 年度 関西大学幼稚園	保護者アンケート(初等部関連)結果一覧表
資料 3-2	2014 年度 関西大学幼稚園	保護者対象初等部に関するアンケート

2014年度 関西大学幼稚園 学校評価（自己点検・評価）分析

関西大学幼稚園 自己点検・評価委員会

1 本園の概要

関西大学幼稚園は、教育基本法を十分に尊重し、すべての園児が各自の人間性や能力を全面的に開花させていくことを目的として昭和26年に開設され、創立64年目を迎えている。

本園は、「自主性の陶冶」「協同性の涵養」「生きる力の育成」の3本の柱を教育の基本方針とし、様々な環境や境遇に育った子どもたちが、幼稚園の新しい環境と集団生活に適応できるように教育活動を実践している。「いきいきと自己表現ができ、積極的にいろいろなことに取り組むことのできる子どもにすること」、「みんなで協同して仕事をしたり、遊んだりすることのできる子どもにすること」、「困難に出会った時、前向きに解決していける豊かな感性と生活の知恵をもつ子どもにすること」を子どもの育ちのなかで見逃すことなく働きかけながら、子どもが子どもらしい感性を發揮し、心豊かに人間らしく育つことを、時代を越えて守っていかなければならない、と考えている。

また、本園は自然環境に恵まれ、園舎前面に運動場があり、園庭には楠、桜、いちょう、せんだん、くぬぎ、かえで、つつじ、つばき、きんもくせいのほか、裏山には松、かし等の樹木に囲まれている。また、ざくろ、みかん、柿、ジューンベリー、ブルーベリー、木イチゴ等の実のなる木や草花の存在は、子どもたちに四季折々の自然を身近に感じさせる楽しみとなっており、情操教育の一助となっている。

このような環境の中で、教育学や心理学及びその他の諸科学の進歩に即しながら、子どもたちの感覚を豊かにすることに重点を置きつつ、認識、情操、能力、健全な心と体の発達をはかるための保育を開設以来積み重ねている。

一方、本園を運営する学校法人関西大学は、「長期ビジョン KU Vision2008-2017 具現化のための長期行動計画」を踏まえて、その実現のために、中期行動計画を策定し実施している。本園においても、この枠組みの中で基本方針と中期行動計画の連関を意識しながら教育活動を実践している。

2 今年度の教育活動状況

本年度の中期行動計画で掲げた「大学との連携活動の推進」に関しては、関西大学大学院心理学研究科の「児童臨床心理学実習」の一環として本園で短期実習を実施することが定着している。また、関西大学国際部と連携し、普段の保育時間内に外国人留学生を招き園児との交流を深める取り組みも定着しており、今年度は5月から2月の間に計24回の機会を持ち、延べ65名の外国人留学生が参加している。外国の言葉を耳にし、一緒に遊び、昼食を共にすることですぐに打ち解け、機会を重ねることで園児から留学生の国の言葉で挨拶をする等、園児の外国への興味と関心が自然と深まっている。さらに今年度は、「芸術教育」に着目し、芸術を身近に体感することを目的とした「楽しいつどい」の取り組みを実施した。集いは、関西大学吹奏楽部やグリークラブの学生の協力を得て、大変有意義なものとなった。

「関西大学初等部との連携活動」においては、2月の公開授業に全教員で参加し、初等部の特色

ある教育法への理解を深め、その後初等部の1年生の教員と懇談会を持った。懇談会では、本園から内部進学した児童の現状報告を受け、幼児教育と初等教育の円滑な接続についての意見交換を行ない、今後の保育内容等に活用できるものとなった。

また、「子育て支援策の策定」においては、「希望（のぞみ）クラス」と並行して今年度より実施した預かり保育「なないろ」は、本園の保護者の就労状況から予想通り利用頻度はあまり高いものではなかったが、用事を済ませることができた等好評を得ている。

3 評価の実施にあたって

本園の自己点検・評価（学校評価）は、教育的営為を大きく下表のように複数の項目に分類し、3年かけて一巡する取り組みにすることを、学校法人関西大学自己点検・評価委員会（併設校部門委員会）において承認されている。また、園児募集については、2013年度の入園予定者が例年になく定員に満たない状況となっていることも踏まえて、3年間は評価対象として検証することとしている。

2012年度	2013年度	2014年度
教育の基本方針	食育	保護者への働きかけ
教育内容	年間行事	小学校（初等部）との関連
安全教育		子育て支援
		施設・設備
*園児募集	*園児募集	園児募集

2014年度の本園における主な自己点検・評価活動は以下の通りである。

日付	議題	内容
4月 1日(火)	今年度の評価の課題について *年間行事アンケートについて	・各担当者を決定 ・各担当者を決定
4月 11日(金)	今後の予定について	検討事項の確認
5月 2日(金)	小学校（初等部）との関連について	・検討事項の確認 ・アンケート内容整理
5月 9日(金)	小学校（初等部）との関連について	アンケート項目の作成
5月 23日(金)	「小学校(初等部)との関連について」 アンケート実施	締め切り 5月 27日(火)
6月 6日(金)	*年間行事アンケート	1学期の「行事や四季の取り組みについて」のアンケート内容検討
6月 20日(金)	2013年度評価報告書の課題と改善点 について	「子育て支援」「施設・設備」について考察

日付	議題	内容
6月27日(金)	2013年度評価報告書の課題と改善点について	「保護者への働きかけ」について 考察
	*年間行事アンケートについて	1学期の「行事や四季の取り組みについて」のアンケート項目の最終確認と決定
7月4日(金)	初等部との連携について	初等部との懇談会における議題の検討
7月8日(火)	初等部との連携について	初等部との懇談会における議題の最終確認と決定
	*年間行事アンケートの実施	締め切り7月14日(月)
7月29日(火)	今年度の評価「子育て支援」「施設・設備」についてのアンケート項目の作成	・保護者用アンケート ・教師用アンケート
11月14日(金)	今年度の評価「保護者への働きかけ」についてのアンケート項目の作成	・保護者用アンケート ・教師用アンケート
12月5日(金)	*年間行事アンケートについて	2学期の「行事や四季の取り組みについて」のアンケート項目の最終確認と決定
12月12日(金)	今年度の評価「子育て支援」「施設・設備」「保護者への働きかけ」についてのアンケートの実施	締め切り12月19日(金)
	*年間行事アンケートの実施	
12月22日(月)	今年度の評価「子育て支援」「施設・設備」「保護者への働きかけ」保護者用アンケートの集計・分析 *年間行事アンケートの集計・分析	
12月25日(木)	*年間行事アンケートについて	3学期の「行事や四季の取り組みについて」のアンケート内容検討
1月30日(金)	教員用アンケートの実施	締め切り2月2日(月)
2月2日(月)	教員用アンケート集計・分析	
2月18日(水)	*年間行事アンケートについて	3学期の「行事や四季の取り組みについて」のアンケート項目の最終確認と決定
	*年間行事アンケートの実施	
3月9日(月)	学校関係者評価委員会開催	

本園の学校評価活動の特徴として、2010年度から保護者にも協力を仰ぎ、保護者と教員との間で本園の教育についての意識が共有できているかを検証している。昨年度同様に保護者全員へのアンケートを12月に配付し、回収率は94.8%であった。

また、学校評価活動の取り組みが 2015 年度より 3 巡目となるため、それに向け「年間行事等」について（*印）のアンケート調査を今年度から実施することにした。保護者の記憶が鮮明な時期を逃さないために学期ごとにアンケートを実施し、その結果を次年度に活かせるものと考えた。

4 評価の分析

（1）保護者への働きかけ

本園では、教育方針や教育内容を伝えることとあわせて、保護者と教員が子どもの成長を願う者として共通理解を深めることを目的に、直接的あるいは間接的に保護者への働きかけの機会を設定している。

ア 直接的な働きかけについて

【現状の説明】

保護者と直接顔を合わせて話す個人懇談や懇談会等は、本園の教育方針や教員の考えを直接伝えることができる機会であり、保護者と共に子どもの成長を考える場である。また、連絡帳においても紙面を通して、保護者と子どもの成長を考える機会としている。

（ア）太陽と大地の会

園長と保護者が子どもの成長や子育てで観等を話し合う場であり、参加者が自分自身を振り返り自分と向き合う場となっている。参加される保護者になるべく自然体で話ができるよう、3、4月以外の月に月2回設定し少人数での会にしている。また、卒園児の保護者や父親の参加も可能である。

（イ）園長懇談

一年を通して保護者からの要望に応じて園での相談、あるいは電話相談を行っている。子どものこと、育児のこと、また保護者自身の悩み等を聞き、少しでも保護者の気持ちを軽くし、子育てを楽しめるよう働きかけている。

（ウ）クラス懇談会

月1回（8月、12月、1月は除く）クラスごとに行い、ほぼ全員の保護者が参加している。担任は保護者に本園の教育方針や教育内容がより伝わるように、クラスの様子、保育のねらいや取り組みについて具体的な子どもの姿を交えて話している。

（エ）グループ懇談会

園生活に慣れた年中児保護者に1グループ（6名）ずつ自由遊びでの様子やクラスの子ども同士の関わりを参観してもらい、後日2グループ（12名）が集まり、参観で感じたことや家庭での過ごし方、年少組から年中組に進級したことによるとまどいなどを話し合う場であり、グループ分けをすることで話しやすい雰囲気を作り、より多くの保護者が発言できるようにしている。教員にとっては、保護者の子どもへの思いや考えを知ることができる機会である。教員と保護者が相互に子どもへの理解を深めていけるように努めている。

（オ）個人懇談

保護者から家庭での子どもの様子や子育ての悩みを聞き、教員は園での子どもの様子を交えながら個人に合った具体的なアドバイスをするように努めている。1学期は入園、進級に

伴う保護者の不安を少しでも和らげるため、各学年共4月に1度目の個人懇談を設けている。年少組は11月頃から自由遊びを参観した後、2度目の個人懇談を行い、参観時の子どもの様子から具体的な話をしている。年長組は11月半ばから2度目の個人懇談を行い、小学校入学を見据えた話をしている。また、個人懇談の期間でなくとも保護者から要望がある時には時間を設け、対応している。

(カ) 連絡帳

連絡事項にとどまらず、家庭での子どもの姿や子育ての事、子どもを通して感じた園生活のこと等、保護者の思いや考えを担当に伝えるノートである。連絡帳でのやり取りを通して担任と保護者が互いの思いや考えを知り、子どもへの理解を深め、子ども観をより近いもの出来るよう努めている。

イ 間接的な働きかけについて

【現状の説明】

数々の発信物においては、教育方針や教育内容が伝わるように具体的な子どもの姿を通して教員が感じたことや考えを文章で伝えている。また、保護者が読み進めたいくなる文面や、発行を楽しみにしてもらえそうな便りになるよう努めている。

(ア) 園だより

園長が年間約30号発行し、園の教育方針や保育観を伝えている。本園の行事に対する考えや取り組み、あるいは各学年の発達の違いを踏まえた子どもの姿などを伝えることによって、幼児期の子どもの育ちの大切さにより目を向けてもらえるよう働きかけている。

(イ) 学年だより

各学年に担任が、年少だより年間約17号、年中だより同約20号、年長だより同約25号発行している。連絡事項にとどまらず、教育内容や取り組みへのねらい、具体的な子どもの様子や子どもが経験したことを書くことで、学年の様子を伝え本園の教育方針や教育内容を理解してもらえよう努めている。

(ウ) 通園だより

年間6～7号発行している。本園の通園方法は電車と徒歩での集団通園である。集団通園における教育的意義や通園時において指導している交通マナーや、公共マナーを伝えている。各地区での様子や子どもの姿を通して、家庭においても交通ルールや公共のマナーを意識してもらえよう働きかけている。

なお、通園だよりの発行回数は、2010年度自己点検・評価活動時に、集団通園における本園の教育的意義が十分に伝わっていないことが保護者アンケートにより判明したため、年2号の発行を2011年度から年6号あるいは7号発行することとしている。

(エ) 食育だより

年間6～7号発行している。給食や弁当時の子どもの姿を通して教員が感じたことや考え、あるいは旬の食べ物、おやつとの与え方、日本の伝統文化（お月見、冬至、正月）の食に関すること等を題材に発行している。

昨年度に「食育」を自己点検した際に、「ご家庭ではおやつの内容を季節や行事を意識し

与えることがありますか」という設問への結果に対して、外部評価委員会委員からも「気持ちとしてはやや残念」との感想をいただいております、本園教員としても、改善すべきと考えている。確かに、各家庭において、おやつを通した食育まで実践することは難しい部分もあるが、食育だよりを通じて、その大切さを伝えられるよう、掲載内容を工夫するようにした。

なお、2010年度自己点検・評価活動時に、食育に対する認知度が想定より低かったことが保護者アンケートにより判明したため、2011年度からは家庭における取り組みも意識してもらえるよう働きかけている。

(オ) 機関誌「はぐくみ」

はぐくみの会（保護者会）と園が協賛で年4回（4月、7月、12月、3月）発行している。園からは、教育方針、教育内容、園長と各学年の担任の思いや考えを掲載している。はぐくみの会からは役員会・クラブ活動の報告、保護者から寄せられる原稿等を掲載している。昭和32年発行以来、家庭と園相互の子育て観や保育観、保護者会の活動等を記録した本園の歴史である。

ウ 講演会、講習会について

【現状の説明】

講演会は主に園が主催しており、保護者が自分自身のことを見つめ直すことによって子育てのヒントを得、悩みや心配事が解消されるきっかけになることを願って企画している。講演内容については、現在の子どもたちや保護者の姿から教員が感じる事、また社会情勢にも視点を置き、今子育てに大切だと感じる事等を教員で話し合い、職員会議において決めている。

講習会においては、はぐくみの会が主催しており、保護者同士が楽しく取り組めるひとつの機会として企画している。

講演会開催状況	
12/8（月）	テーマ：「子ども育ちー変化し続ける現代においてー」 講師：関西大学大学院心理学研究科 教授 寺嶋 繁典
講習会開催状況	
6/25（水）	「フェルデンクライス・ネソッド」～心をひらく体のレッスン～
1/29（木）	「モバイルづくり」～色羊毛であそぼう～

エ 保育参観について

【現状の説明】

参観は子どもたちがいつもと変わらず過ごせるように配慮し、学年によって参観者の人数や時期を考え設けている。保護者には参観前にクラス懇談会や学年だよりを通して、参観で見てほしいポイントや子どもたちがいつも通り過ごせるよう協力してほしいことを伝えている。気になることや心配なことがあれば参観後に保護者から教員に申し出てもらい、連絡帳や個人懇談を通して一緒に考える機会を設けている。

(ア) 自由遊びを参観（年少・年中組）

年少組は園生活に慣れリラックスして過ごせるようになる 11 月から翌年 1 月に 2 名ずつ参観を設けている。また、年中組はより友だちとの関わりも深まり、遊具を工夫して遊びを展開していくようになる 11 月から翌年 1 月に 5、6 名ずつ参観を設けている。

(イ) リズム参観

教育内容のひとつであるリズム運動の参観を年中組と年長組で設けている。年中児保護者にはリズム運動がどのようなものなのかを参観を通して知ってもらい、日常生活の中で身体を動かす大切さを感じてもらうため、6 月に参観を設けている。年長児保護者は個々の身体の動きや友だちと気持ちを合わせて取り組む動き、友だちを応援する姿等子どもの成長を感じてもらえるよう卒園前の 3 月に参観を設けている。

(ウ) 誕生日のお祝いと参観

月単位でお祝いをするのではなく、一人ひとりの誕生日を大切に考え生まれた日（休園の場合はできるだけ近い日）にお祝いしている。誕生日を迎えた園児に対して保護者 1 名に来園していただき朝の集まりからお祝い後の自由遊びまで参観を設けている。お祝いの場では保護者に誕生日を迎えた我が子の隣の席に座ってもらい、子どもの成長やクラスみんなで祝う雰囲気を感じてもらう機会としている。

(エ) 運動会参観

戸外遊びに適した 10 月を運動月間とし、毎日「運動会ごっこ」と称して体育遊びや集団遊びに取り組んでいる。その中で 10 月中旬の平日に年少・年中児保護者は 1 日、年長児保護者は 2 日間の参観日を設けている。参観日当日に向けて練習を重ねて“完成したもの”を披露するものではなく、日々の保育の中に「運動会ごっこ」を位置づけ、積み重ねることで子どもの成長を感じてもらう機会としている。

(オ) 休日参観

普段の登園日には来園できない保護者のために休日に参観日を設け、園生活を知ってもらい、生活面や友だちとの関わりを通して子どもの成長を感じてもらう機会としている。日曜日や祝日に開催するため父親の参加が多いのが現状ではあるが、様々な家庭環境があることを考慮し、あえて「父親参観」という名称は使用せずに「休日参観」としている。

年少児にとって長時間、多くの大人がいる中で過ごすことは精神的な緊張が続き負担であるため、保護者には来園後約 1 時間、スライドで園生活や子どもの姿を見ながら園長の話聞いていただき、その後子どもの様子を参観する時間を設けている。年中・年長児は朝の集まりから降園までを親子で一緒に過ごしている。

(カ) クラス全員で取り組むごっこ遊びの参観（年長児のみ）

年長組のクラス全員の取り組みとして「おみせやさんごっこ」を行っている。年長児は普段の遊びや年少・年中児の時に招待された経験を活かし、アイデアを出し合って様々なお店（輪投げ屋、たこ焼き屋、綿菓子屋、ネックレス屋等）を作り、ごっこ遊びに取り組んでいる。年長児保護者はおみせやさんごっこに参加し、子どもとのやり取りを通してごっこ遊びの世界を感じてもらおうと共に、子どもの成長の姿を知る機会となっている。

【点検・評価と今後の取り組み】

本園で行っている保護者への様々な働きかけの中で、特に個人懇談や懇談会においては保護者と直接顔を合わせて話をするため、子どもに対する相互理解を深める大切な機会であると捉えている。アンケート調査において「クラス懇談会でお伝えする園生活の様子や教育内容を通して、本園の教育方針が伝わっていますか。」の設問に対し、「伝わっている」は全体で78.0%であり、学年別で見ると年少児保護者は84.1%、年中児保護者は74.6%、年長児保護者は75.0%であり、年少児保護者に比べ、年中・年長児保護者が低い結果となっている。「あまり伝わっていない」「伝わっていない」の回答は0%であり教育方針が概ね伝わっていることはわかるが、「伝わっている」の回答が増えるように子どもの現状からポイントを絞ってよりわかりやすく伝える等工夫に努める。

また、アンケート調査において「個人懇談はお子さんの成長や発達を考える上で有意義なものになっていますか。」との設問に対し、「なっている」が全体で76.9%、「まあまあなっている」が全体で22.6%の回答であった。「まあまあなっている」の回答を学年別で見ると年少児保護者は27.0%、年中児保護者、年長児保護者共に20.3%であった。年少児保護者ははじめての園生活の個人懇談で、その多くは子どもの園での様子を知りたい気持ちが強いと思われる。そのような気持ちに配慮しつつ努めてきたが、この結果を受けて教員は学年会議等で子どもの見方や捉え方を確かめ合い、保護者への適切な働きかけができるように努め、今後より一層保護者と有意義な時間が持てるよう検討を始めている。

数々の発信物におけるアンケート調査において、各おたより（園だより、学年だより、食育だより、通園だより）の目的や意図を理解していただいているかの設問に対し、8割以上の保護者が「理解できている」（A評価）との結果であった。

2010年度の保護者対象の同様のアンケートでは、「通園だより」に対しては44.0%がA評価であり、「まあまあ理解できている」のB評価が50.8%であった。これを受けて、内容と発信頻度を再度見直し、2011年度から発信頻度を2回から6回あるいは7回行ったこと、保護者に対して啓発的な内容をより強く意識して作成したことによる効果の表れである。

一般に文字離れが言われている現代の中で、本園の保護者が各おたよりを読み取り、教育目的や指導の意図を汲み取るよう努めていただいている。この結果に甘んじることなく今後も本園の活動をしっかりと発信していきたいと考えている。

（2） 小学校（初等部）との関連

【現状の説明】

卒園生の進路状況は、ほとんどの子どもが本園のある吹田市内の公立小学校に入学し、数名の子どもが高槻市に設置されている関西大学初等部を含めた私立小学校へ入学している。

関西大学初等部については、2010年の開校以来、毎年5月中旬に入学説明会を在園児保護者対象に行っている。入学説明会には就学前の年長児保護者に限らず、初等部に興味や関心を持っている年少・年中児保護者も参加しているが、参加人数は全保護者の2割程度に留まっている。初等部進学希望者は年によって違いはあるがおよそ5～8名であり、内部選考を経て最大

6名が内部進学している。

初等部や他の私立小学校を希望する保護者に対しては、受験を意識した生活によって幼稚園及び家庭での子どもの生活態度に変化が見られる場合があることを伝え、子どもの様子に十分気を付けて過ごすよう助言している。また、以前は3学期に行っていた年長組の個人懇談を11月から順次行い、子どもの現状や課題を話し合うことで、学校生活に不安を感じる保護者の気持ちを受け止め、前向きに園生活を楽しめるように働きかけている。

本園では、小学校との接続にあたり小学校教育の先取りをしていない。冒頭の「1 本園の概要」に記述しているとおり、3つの教育方針を卒園当日まで大切にしている。つまり、基本的生活習慣の確立はもとより、挨拶すること、人の話を聞くこと、自分の気持ちを言葉にして伝えること、友だちと遊ぶこと等が幼児期には特に重要であるため、幼児期に必要なことを園生活では徹底して指導し積み重ねている。また、クラス全体で取り組む経験やグループでの活動、皆の前で発表する経験等を取り入れ、やり遂げることで子どもの自信に繋がりたいと考えている。

また、教員は本園の教育内容と小学校の教育課程を照らし合わせ、日々の保育全てが小学校の教育課程に繋がるという見通しを持って保育にあたっている。

初等部との関連においては、p2の中期行動計画の進捗状況で記述している。

【点検・評価と今後の取り組み】

関西大学初等部開校から5年目となる。内部進学に6名の枠があることは周知され、保護者の38.7%（2010年度47.7%（以下（）内は2010年度のデータ））が初等部に関心を示しているものの、入園に際しては88.8%（88.0%）の保護者が初等部への入学を視野に入れず本園に入園している。その理由は「高槻ミュージックキャンパスに限らず、幼稚園を含めた一貫教育を望みますか」という設問に対する記述欄の回答から推測できる。「一貫教育を望まない」と答えた76.8%（74.4%）の保護者の主な理由は、①高槻市にある初等部と吹田市にある幼稚園とは距離がある、②地域での繋がりを大切にしたい等であり、本園の多数の園児が公立小学校へ入学していることから、私立小学校への進学を重視せず、本園の教育方針に共感したうえで、子どもが小さい間は通学に近い地域の小学校へ行かせたいと考える保護者が多いことが伺える。これは、今年度のアンケートにおいて「現在、幼児教室や塾などに通っていますか」という設問に対し、私学受験を考えていないので通っていないという回答が8割となっていることから、本園では初等部を含む他私学受験を考えていない保護者が本園を選び入園していることが伺える。

一方、一貫教育を望んでいる20.8%（23.7%）の保護者の主な理由に、①幼稚園から初・中・高等部と一貫した教育方針で学校生活を送ることは、子どもにとって良いと感じる、②受験勉強にしばられることなく伸び伸び学校生活を送ってほしい、③幼稚園と初等部の連携がある等をあげている。さらに、「お子さんが小学校に上がるにあたり、何か心配されていることがありますか」という設問に対する記述欄の回答には、①幼稚園と小学校の環境の違いに適應できるか、②初めての環境の中で友だちが出来るか、③学習についていけるか等の不安の声があげられている。

これらは、いつの時代にも保護者との日常会話のなかから確認されており、保護者の不安や

心配事の解消に向けて取り組んではいるが、その内容や方法については時代背景等も含めて今後も工夫と努力を重ねていく。

また、初等部との関連においては、研究発表会の公開授業や懇談会を通し、小学校生活の現状を知り、近年の子どもの育ちについての課題や目指している子ども像が初等部と同じであることが確認できた。さらに、初等部の教育指導方法から多くのことを学ぶことができ、今後の幼児教育に役立てるとともに、幼児期に必要な教育を貫徹することの大切さを強く感じることができた。

2012年度作成した「発達段階に合わせた到達目標確認シート」を活用し、初等教育を受ける前段階として“人としての確かな育ち”を育み、公立私立を問わず小学校へのスムーズな接続が実現できるよう自己研鑽に努める。

(3) 子育て支援

ア 希望（のぞみ）クラスについて

【現状の説明】

希望クラスは、保護者の都合に合わせて子どもを預かるという「預かり保育」や「延長保育」とは異なり、あくまでも子どもの生活リズムの大切さを最優先に考え、年間を通して同じ構成メンバーによる保育を積み重ねる特色のあるクラスとして設定している。帰宅後遊ぶ環境が少ない、住んでいる地区に同年齢の遊ぶ友だちが少ない、少しでも長い時間幼稚園で過ごすことが子どものためになる、異年齢の子どもとの交流をさせたいなどを理由とする保護者のニーズにこたえたものである。

教員は、14時までの保育を終えた子どもたちを「おかえり」と温かく迎え、少人数で家庭的な雰囲気の中、兄弟のような関係を築けるよう心掛けている。入室してきた子どもたちは制服から私服に着替え、手洗い・うがいを済ませた後、14時までのクラスとは違った異年齢の友だちと遊び、おやつを食べ、保護者の迎えを待つ。希望クラスの保育室にはじゅうたんを敷きリラックスできるような環境を整え、遊具は少人数に適し落ち着いて遊べるものを取り入れている。担当教員は希望クラスでの子どもの様子を記録し担任に知らせることや、担任と話し合うことでその子への理解を深め、共通認識をもって子どもと関わることを大切にしている。また、保護者には、降園後は家庭でゆっくりと過ごして頂くようお願いしている。

2012年度までは年長児は5月から、年中児は10月からの週2回（火・金）14時から16時の時間帯で行っていたが、希望者が多く数年抽選を実施せざるをえなかったことを踏まえ、2013年度からは「火・金クラス」「月・木クラス」の2クラスに増設した。

また、開始時期についても、年中児は6月からの利用に変更した。2014年度は年少児をクラスに加え、年長児は4月から、年中児は5月から、年少児は9月から始めることにした。また、保育時間を1学期は16:30まで、2・3学期は17:00までに変更した。これは希望クラスを続けて6年間、子どもたちの様子を見て保育時間を延長しても子どもたちに無理がないと判断したためである。

【点検・評価と今後の取り組み】

2010年度評価報告書では「クラス数を増やすことは不可能」と記しているが、新たな教員を雇用することで解決することができた。クラスを増設することにより、園全体としての負担は増加したものの、当初の理念としていた少人数制（1クラスの定員20名）を守り、夕刻までの時間を穏やかに過ごせることに繋がっている。

2010年度の同報告書では、「教員はクラス懇談会において、本園の希望クラスと一般的な預かり保育との違いや有効性について、保護者の理解が深まるよう取り組みたい」と記述している。これを検証するために、今年度のアンケート調査において、「本園の希望クラスは一年を通してクラス集団として保育を積み重ねることを目的としています。実施目的をご存知ですか。」という設問を設定したところ、「知っている」63.4%、「なんとなく知っている」30.6%との結果が出ており、2010年度の39.3%と43.5%より向上した。「あまり知らない」3.8%、「知らない」0.5%の主な理由には、「利用する予定が無いので説明や手紙をしっかりと読んだことがなかった」という回答が見られた。

以上のことから、4年前よりも教員の意識及び保護者の理解の向上に取り組めたといえる。

次に、2014年度のアンケート調査において、「本園における希望クラスは、子育て支援に有効だと思いますか。」という設問に対し、「そう思う」64.5%、「ややそう思う」30.1%との結果が出ており、2010年度の18.3%と45.5%より向上した。これは教員の意識の高まりや働きかけだけではなく、希望クラスでの心地良い過ごし方を体験した親子との会話の中で未体験の親子へ広まっていることが確認できている。

また、「保護者の観点から最長何時までを希望されますか。」という設問では「16時まで」が24.2%、「17時まで」が51.1%であった。これに対して「子どもの観点から何時までが適切な預かり時間だとお感じですか。」という設問では「16時まで」が50.0%、「17時まで」が44.6%であった。このことから、94.6%の保護者が親の都合を最優先するのではなく、子どもへの負担を考えていることが読み取れる。よって今後も子どもたちの様子を見ながら、子どもたちにとって最善の保育時間を慎重に検討することとしたい。

イ 預かり保育（なないろ）について

【現状の説明】

希望クラスでの子どもの様子から、預かり保育の中でも子どもたちの成長に関わることができると確信し、2014年度より希望クラスに並行し「預かり保育（なないろ）」を実施することにした。

近年、核家族化で一時的に子どもを預けることが出来る環境の減少や共働きの家庭が増えている環境の中で仕事をもつ保護者などからのニーズに応えたいとも考えるが、子どもにとっては保護者の事情で参加日が不特定となり多少不安を感じる事が予想される。その点を十分に考慮するため、7クラス（全クラス）の子どもが楽しく集うひとときになることを願い「なないろ」と名付け、子ども同士が育み合えるよう働きかけることを強く意識している。

また、保護者には子どもの様子を見て、無理のない利用をお願いしている。担当教員は預か

り保育での子どもの様子を記録して担任に知らせることや、担任と話し合うことで子どもへの理解を深め、共通認識をもって関わることを大切にしている。

実施日は、月・火・木・金の週4回、午後保育終了後から16時または17時までである。但し、年少児については園生活に慣れ始めた5月から利用して頂くようにしている。

【点検・評価と今後の取り組み】

アンケート調査により、全体の半数以上(68.3%)が利用しており、利用理由としては「仕事のため」12名、「用事のため」89名、「その他」20名(内訳:本人の希望(11)、兄弟姉妹の小学校の学校行事のため(5)、子どもに遊び相手のいる環境を与えたかった(2)、園の友だちと過ごす時間をつくるため(1)、妊娠出産(1))であった。仕事で利用する人よりも一時的な用事で利用する人が多かった。これまで保護者の事情で利用する預かり保育がなかった本園なので、働いている保護者は少ないと思っていたが予想以上に仕事で利用する保護者がいることがわかった。

預かり保育に参加した子どもの79.5%が喜んで参加しており、参加させて良かったと思う保護者は82.7%という結果が見られた。「子育て支援に有効だと思いますか。」では「そう思う」78.5%とあり、仕事をしている保護者のためだけではなく、用事で子どもを預ける人や場所がない保護者にとって、安心して預けられる場所として効果を上げている。

ウ 2歳児親子教室について

【現状の説明】

入園前の親子を対象に、あやし遊びやわらべうた等素朴な親子遊びを通して子どもと向き合う楽しさを感じてもらうための取り組みである。

2005年度に2歳児親子教室を開設してから今年度で10年を迎える。それぞれの親の様々な考え方や子育て観がある中、本園の教育方針に触れ、子どもの成長、発達の道筋に即した2歳児本来の姿を知ってもらい機会となるよう考え取り組んでいる。

本園の特徴を感じてもらえるようなこれまでの内容に加え、2013年度からは親子で一緒に遊ぶ機会を増やした。目の前で遊んでいる子どもの言動を見ながら、保護者に対しては、親としての関わり方や遊びの見方を伝えている。また、2歳児親子教室の3クラスに関わっている担当教員が集まり、クラスの様子を伝え合い、園全体としても共通認識を持てるようにしている。

2013年度と2014年度は、年間19回、2クラスから3クラスに増設して希望者全員が入室できるようにした。

【点検・評価と今後の取り組み】

具体的に目の前の子どもの姿から話ができただけで、保護者はより理解を示していたように感じる。また保護者との会話から、家庭での関わりを考える機会となり、他の子どもの姿を見ることで視野が広がったことが伺える。

担当教員は親子で一緒に遊ぶ機会を増やしたことで、それぞれの親子関係を知ることができ、個別のアドバイスができた。

エ 教育相談について

【現状の説明】

関西大学臨床心理専門職大学院教授と関西大学心理相談室カウンセラーによる専門的な教育相談を毎月2回設けている。また、園長による子育て相談は随時行っている。希望される方には連絡帳で申し出てもらい、保育時間中に話せるように時間を設定している。

担任以外に専門家や園長との相談の窓口を設けることで、保護者の心の安定を図り、子どもとの関係をより良い方向に導くものになれるよう努めている。

【点検・評価と今後の取り組み】

アンケート調査において「子育ての不安を和らげることを目的とした教育相談という制度を設けています。この教育相談の存在をご存知ですか。」という設問に対し、「知っている」「なんとなく知っている」が94.6%で、ほとんどの保護者が存在は知っているが、受けたことがあるのは8.5%とごく少数であった。これは、2010年度実施したアンケート結果（同12.1%）と大きな変化はない。あまり利用されていない理由として、保護者には重い悩みの相談室という印象をもたれている可能性が考えられる。しかし視点を変えれば、大きな悩みになる前に個人懇談や連絡帳、園からの発信物により保護者自身で解決できる環境であるとも考えられる。

オ 「関大幼稚園で遊びませんか」について

【現状の説明】

2012年度から3年保育への入園を検討している親子を対象に、在園児と共に園庭で遊ぶことで、幼稚園の雰囲気を感じ、また、本園の保育や子ども観に興味を持ってもらうことを目的に「関大幼稚園で遊びませんか」を設けている。在園児の保育に支障のないよう参加の親子を6組に制限している。また、園長と気軽に子育てについて話せる場でもある。

2012年度は2回、2013年度は6回、2014年度は8回実施した。

【点検・評価と今後の取り組み】

園庭で遊ぶ年長児や年中児と関わる我が子の姿や、在園児の何気ない優しさに触れて、園の保育や雰囲気を感じていただく機会となっている。参加者には好評で、2、3度申し込まれる方もいる。

(4) 施設・設備

【現状の説明】

保育室内の環境については、園児が心地よく安心して過ごし、楽しく遊びを展開できるよう、年度初めに各保育室を全教員で点検している。また、園の花壇で育てた花や園児が園内で見つけた落ち葉や木の実を飾る為に「季節のテーブル」を設け、棚の上や靴箱の上にも常に花を飾り、季節を感じられるようにしている。

自然環境については、恵まれた環境を積極的に保育に取り入れ、園内の散歩の折には咲いて

いる花や実のなる樹木の変化などに子どもが目を向け季節を感じられるように働きかけることに努めている。恵まれた自然環境を保育に生かすためには園内の整備と草花・樹木への理解が重要であると考え、園内の草花や樹木については、季節の花・野草・ハーブ・実のなる木・樹木に分けて一覧表を作り全教員が知識を深められるようにしている。

園舎については、安全を第一に考え、問題があれば即座に対応し修理改善を行い安全整備に努めている。2006年度より3年計画で和式トイレを洋式トイレに変える工事を行ったが、小学校入学を見据えて和式トイレの指導も必要であると考え一部残していた。しかし、小学校や公共のトイレも洋式トイレに変わっている現状を踏まえて、2013年度にすべてを洋式トイレにした。また、各保育室の耐震工事や屋根の葺き替えを行い、各保育室とホールにはエアコンを設置し、さらに、防犯ベルの音がより広範囲に聞こえるように裏山側へのスピーカーも新たに設置した。2014年度はホールの屋根の葺き替えと耐震工事、各保育室に床暖房を完備した。大規模災害や不審者侵入など、緊急事態に備えて危機管理マニュアルを作成したことにより課題に気がつき、プール裏側に緊急避難用出口を増設した。

固定遊具の安全については、毎年春に業者による安全点検を実施しているが、常時各教員が安全確認の意識を持ち行動するとともに、学期に1度全教員で園内を巡回し園児に危険がないよう安全点検を行っている。

【点検・評価と今後の取り組み】

保護者へのアンケート結果によると、「子どもたちが園生活を過ごしやすいように環境整備ができていますか。」という設問では、2010年度のアンケート結果では「そう思う」が74.3%だったが今年度は80.1%に、「幼稚園の季節の花々や樹木、実のなる木などは、子どもたちが四季を感じられるように整備されていると思いますか。」という設問では「そう思う」が88.5%から93.0%に、「保育室は子どもたちが生活しやすいように環境が整えられていると思いますか。」の設問では「そう思う」が70.2%から87.6%という回答が得られていることから、いずれも3年前と比べてより多くの保護者が園の環境に満足していることがわかる。この結果に甘んじることなく今後も環境整備について高い意識を持ち続けると共に、子どもが四季の移り変わりを感じられるよう草花や樹木への知識を全教員が深められるようにする。

安全面においては「幼稚園の施設・設備は安全に配慮されていると思いますか。」の設問では2010年度は「そう思う」が67.5%となっていたが、今年度は75.8%という結果となっている。また、教員へのアンケートでは2010年度は「そう思う」が14.3%となっていたが、今年度は100%となっており、2010年度の学校評価の結果を受けて、各自が安全確認の意識をより強く持って行動し、学期に1度全教員で安全点検に取り組んだ結果といえる。しかしながら、2010年度の学校評価で課題にあげていた絵本の部屋の整備については、4000冊余りある絵本の修理・点検作業が遅々として進まない実情から、定期的に整理・点検作業に取り組むのではなく、長期休暇中に集中的に取り組むことにする。

(5) 園児募集

【現状の報告】

園児募集については、例年入園前年の7月からホームページ上で「入園概要について」と掲出し、8月末に朝日新聞と読売新聞、リビング吹田（タウン誌）に折込チラシを入れて告知している。また、入園希望者対象に「園内参観」と「遊びませんか？（在園児と園庭で遊ぶ）」を可能な限り実施し、2歳児親子教室参加者には園庭解放を行なった。9月初めに入園説明会（園内施設参観）を開き、翌週に3日間の園内参観日を設けており、参観時には在園児の保護者数名の協力を得て、参加者の質問に対応してもらっている。

2015年度の新人園児数に関しては、2014年10月1日の受付日に定員を満たし、2015年2月現在10名程の待機者がある。

【点検・評価と今後の取り組み】

2013年度入園者を対象とした園児募集に際して、過去にない大幅な定員割れを起こしたため、これを機会にこれまでの園児募集活動を検証し効果的な活動を模索すると共に急遽この3年間、園児募集活動を自己点検してきた。

2012年度に初めて実施した翌年度入園希望者向けの「遊びませんか？」は好評を得、その後の入園の動機づけになったとのアンケート結果を受けて、2013年度から開催日を2年連続で大幅に増やして対応している。今年度の「遊びませんか？」の問い合わせの中に翌々年度の入園予定者の参加希望が多くあったことから、幼稚園選びの低年齢化がうかがえる。この点に着目し、今後は2歳未満児とその保護者への子育て支援を視野に入れた取り組みを検討していくこととする。

また、昨年度同様に「2歳児親子教室」の定員を30名から45名に上限を設定し実施したところ、2015年度の入室希望者は定員を上回り11名の待機者が出ている。

以 上

学校関係者評価委員会からの評価結果

〈自己点検・評価の適切性〉

関西大学幼稚園では自己点検・評価の内容を3つに分類し、3年で一巡する形態をとっており、2014年度は保護者への働きかけ、小学校（初等部）との関連、子育て支援、施設・設備、園児募集について行っている。子どもの成長に果たす幼稚園教育の役割は大きいですが、これを円滑に進めるためには保護者の協力が不可欠である。本年度の自己点検・評価は、園が安心して子どもの学べる場であることへの理解を保護者に促し、両者が手を携えて子どもの成長に力を尽くすために必要な内容が盛り込まれており、適切に評価が行われている。

〈重点的な取り組みの適切性〉

本年度の自己点検・評価は、教育方針や教育内容を伝えるとともに、保護者と教員の子どもについての共通理解を図るための「保護者への働きかけ」、卒園生の進学先の1つである「小学校（初等部）との関連」、子育てに関する保護者のさまざまなニーズに応える「子育て支援」、子どもの過ごす園の「施設・設備」である。

「保護者への働きかけ」は、主として、個人懇談や懇談会、連絡帳等の直接的働きかけと、園だよりや学年だより、食育だより、保護者会と園の協賛による機関誌の発行等の間接的働きかけに分けて点検しており、子どもの成長を保護者とともに考える機会及び教員の思いを保護者に伝える機会を十分に提供している。「小学校（初等部）との関連」は研究発表会の公開授業や懇談会を通じて小学校生活の現状を知り、子どもの育ちについての課題や目指している子ども像が初等部と同じであることを確認している。また、初等部の教育指導方法を幼児教育に役立てるとともに、幼児教育を貫徹することの大切さを教員は強く感じている。国は2007年に学校教育法を改正し、幼稚園教育は義務教育及びその後の教育の基礎を培うことをその教育目的に据え、現行の幼稚園教育要領と小学校学習指導要領において、幼児期の教育と児童期の教育が円滑に接続されることが重要であるという考えを示している。先に述べた本園と初等部との関係は、国の方針にも合致したものと考えられる。「子育て支援」では、希望クラス・預かり保育（なないろ）の目的や実施方法について検討が加えられている。また、「施設・設備」は保育室内の環境、自然環境について点検し、いずれも前回2010年のアンケートよりも高い評価を得ている。「園児募集」については2013年度の募集時に例年になく定員割れが起きたことから、これまでの園児募集のあり方を検証し、効果的な活動を模索した結果、短い期間に入園者の数が増加した。

〈自己点検の結果を踏まえた改善方策の適切性〉

本年度の自己点検・評価項目は2011年度から二巡目であり、前回との比較も含めながら、丁寧に分析を行っている。前回のアンケートで他に比べて低めに評価された項目については、改善努力を重ね、今回は前回よりも良い評価を得ている。教員がどれほど子どものために思い、どんなに素晴らしい教育を行っても、期待や思いは各人で異なることから、すべての人に満足いくものはないかなかなか見いだせないし、保護者にとっての良い教育と子どもが生き生きする教育とは異なるため、評価結果の解釈は難しい。一般に、高い評価は受け入れやすく、満足できるものであるが、それに

甘んじることなく、低めの評価を受けた項目も一つ一つ検証する姿勢を通じて、教育的営為に対する教員の意識そのものが向上し、今後の工夫につながっている点を高く評価したい。

アンケートを行い、結果を数値で表すことは、全体的な意見や評価を見るには有用であるが、その分、細かなところが置き去りにされがちである。それを改善するために、「理解できていない」等の低い評価の選択肢には理由を求めることによって、よりの確に回答を理解するための工夫がみられる。

〈学校運営の改善に向けた取り組みの適切性〉

本園では、2013年度の入園者が例年になく定員を下回ることが明らかになった時点から2014年度まで、3年間にわたって「園児募集」を自己点検・評価の対象としてきた。2012年度に実施した入園希望者向けの「遊びませんか？」が入園の動機づけになったことが明らかになると、翌年から2年連続で開催日を増やし、2014年度の「遊びませんか？」に対してより低年齢の子どもの参加希望が多くみられたことを受けて、2歳未満児と保護者への子育て支援を視野に入れた取り組みを検討し始めている。また、2005年度から開始した2歳児親子教室はクラス数を増やして希望者全員を受け入れ、通常の保育時間が終了した後に子どもたちが異年齢の子どもとともに過ごす希望（のぞみ）クラスのクラス数増設に加え、本年度より、「預かり保育（なないろ）」の実施を開始した。

これらの取り組みはすべて、子どもと保護者のニーズを把握し、それに応えようとする全教員の並々ならぬ努力の結晶であり、それがひいては2015年度の入園予定児の増加につながったと思われる。これらの活動は園児募集という目的以上に、子どもを大切にする姿勢を貫き、保護者とともに子どもの成長を願い、そのために様々な方策を考え実践するという教育者としての純粋な思いに裏打ちされたものであることを本委員会では再認識した。今後も少子化は続くと思われため、幼稚園だけでなく教育機関はすべて入学定員の充足を重要課題ととらえ、そのための方策を考え続けることになると思われるが、子どもを大切に、保護者と一緒に子どもを育てていく本園の教育姿勢を今後も貫いていただきたい。

【学校関係者評価委員会委員名簿】

氏名	所属及び役職
北村 由美	関西大学大学院 心理学研究科 教授 ※評価結果取りまとめ執筆者
表 真幸	関西大学幼稚園 はぐくみの会 会長
岩田 真美	関西大学幼稚園 卒園生保護者
味園 貴子	関西大学幼稚園 卒園生保護者
石倉 千世	関西大学幼稚園 園長

2015年3月27日

「学校評価（自己点検・評価）報告書」に対する園長の意見書

関西大学幼稚園
園長 石倉 千世

2013年度の園児募集において、定員を大幅に割り込んだ際、卒園児保護者や当時の在園児保護者の有志が、本園の魅力を周知させたいという思いからチラシを作成し、募集案内と共に親しい商店や医院等に配付するという活動をしていただいた。また、昨年度の学校評価報告書に対して、外部評価委員会委員から「多面的な努力が実を結び」との評価もいただいております。2013年度新入園児（現年中組）の定員充足率も昨年5月1日現在で90.0%まで上がっており、これにより幼稚園全体の収容定員に対する充足率は92.4%となっている。今後も本園の教育活動を自己点検・評価と絡めながら、「多面的」に改善し続ける必要を感じている。

さて、今年度の学校評価項目である「保護者への働きかけ」は2009年度に、「小学校（初等部）との関連」「子育て支援」「施設・設備」は2010年度に点検評価しており、今年度が2度目となる。前回と比較できる点については、全教員の共通理解と具体的な取り組みによって改善され、そのことが数字に表れており今後の教育活動への励みにしたい。

一方で、「子育て支援」に関する項目において、時代と共に保護者の“支援”に対する解釈に変化がうかがえ苦慮するところである。数年前は子育てに関する不安や悩み等、精神面での助けを求めている保護者が、近年は子育ての物理的な軽減により、自分の時間を持つことを求める傾向にある。また、保護者自身も子どもと一緒に楽しく過ごしたいといったイベント性の要求が目立つように思う。中には子育てに正面から取り組むあまり、精神的な負担を抱える保護者もおられ、価値観の多様化と共に保護者への働きかけが難しい時代であることを痛感する。しかしながら、単に保護者のニーズに応えるサービス業ではなく、あくまでも幼児の健やかな成長発達を目的とする幼児教育であることを見失わずにいたい。そのうえで、特に2歳児親子教室においては、保護者の考え方や求めるものを察知しつつ具体的な手段を講じ、更なる配慮を心掛けたい。

余談ではあるが、イベント性が求められているという点において、本園の教育が“育ち”に焦点を合わせ過程に重きを置いていることから、成果が目に見えにくいものとなっている。その点については、機関誌「はぐくみ」に本園の教育への理解を示してくださる寄稿が多いことや、弟妹児の入園をほぼ100%の保護者が希望されている現状から、本園の教育の特色が理解されていることがうかがえる。また、第1子を卒園させた保護者が、弟妹の在園中に必ずといってよいほど「入学当初はとまどっていたものの、幼稚園で鍛えられた集中力ですぐに勉強への取り組みにもなれることが出来た」という趣旨のお話から、本園の小学校教育を先取りせずに幼児期に必要な教育を貫徹することの大切さを感じている。知識を吸収する時期の早さより、その前提の人としての育ちに着目した教育の実践を今後も大切にしていきたい。

なお、2015年4月から予定されている「子ども・子育て支援新制度」への対応については、学園の常務理事が座長となり「幼稚園問題検討プロジェクト」で検討を行ってきた。来年度以降についても、関西大学一貫教育協議会のもとに関西大学幼稚園運営専門委員会を設置して、引き続き対応を検討することとしている。

2014年度 関西大学 幼稚園 保護者アンケート詳細項目結果

<子育て支援について>

(1)希望(のぞみ)クラスについて

ア お子さんは、希望クラスに喜んで参加していた(いる)と思いますか。

- ㉑ そう思う
- ㉒ ややそう思う
- ㉓ あまりそう思わない
- ㉔ そう思わない

【1】

㉑または㉒と答えた方は主な理由を以下の中から1つ選んでください。

	年少	年中	年長	全体
・同じメンバーで遊べることを喜んでいる	0	1	4	5
・異年齢で遊ぶことを楽しみにしている	0	3	0	3
・希望クラスとしての意識が芽生える	2	2	4	8
・十分遊べる	1	4	9	14
・おやつを楽しみにしている	0	0	2	2
・その他	0	0	3	3
無回答	2	5	0	7

【2】

㉓または㉔と答えた方は主な理由を以下の中から1つ選んでください。

	年少	年中	年長	全体
・いろいろな子どもと関わりたい	0	0	0	0
・異年齢との遊びを嫌がる	0	0	0	0
・17時になったことを負担に感じている	0	1	0	1
・その他	0	0	2	2
無回答	0	0	0	0

イ 保護者の方は、希望クラスに参加させて良かったと思いますか。

- ㉕ 良かった
- ㉖ まあまあ良かった
- ㉗ あまり良くなかった
- ㉘ 良くなかった

【3】

㉕または㉖と答えた方は主な理由を以下の中から1つ選んでください。

	年少	年中	年長	全体
・メンバーが決まっていることで関係が深まる	0	5	6	11
・異年齢で遊ぶことによって成長を感じる	4	6	5	15
・少人数で家庭的な雰囲気を感じる	0	2	6	8
・その他	0	1	3	4
無回答	1	2	0	3

【4】

㉗または㉘と答えた方は主な理由を以下の中から1つ選んでください。

	年少	年中	年長	全体
・異年齢との遊びが楽しめない	0	0	0	0
・少人数での遊びが物足りない	0	0	0	0
・その他	0	0	2	2
無回答	0	0	0	0

(2) 預かり保育(なないろ)について

ア お子さんは、預かり保育(なないろ)に喜んで参加していた(いる)と思いますか。

- ㉑ そう思う
- ㉒ ややそう思う
- ㉓ あまりそう思わない
- ㉔ そう思わない

【5】

㉑ または㉒ と答えた方は主な理由を以下の中から1つ選んでください。

	年少	年中	年長	全体
・いろいろな子どもと遊べることを楽しみに	20	19	23	62
・なないろの遊具で遊べることを喜んでいる	5	6	12	23
・おやつを楽しみにしている	9	3	4	16
・その他	3	1	5	9
無回答	5	2	3	10

【6】

㉓ または㉔ と答えた方は主な理由を以下の中から1つ選んでください。

	年少	年中	年長	全体
・遊ぶ友だちがいなかった	1	1	0	2
・はじめての環境に戸惑っていた	4	1	0	5
・その他	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0

イ 保護者の方は、なないろに参加させて良かったと思いますか。

- ㉑ 良かった
- ㉒ まあまあ良かった
- ㉓ あまり良くなかった
- ㉔ 良くなかった

【7】

㉑ または㉒ と答えた方は主な理由を以下の中から1つ選んでください。

	年少	年中	年長	全体
・用事を済ませることができた	25	9	26	60
・子どもが喜んでいて	11	14	10	35
・園の安全な環境で遊ばせることができた	6	5	4	15
・その他	1	1	4	6
無回答	4	3	3	10

【8】

㉓ または㉔ と答えた方は主な理由を以下の中から1つ選んでください。

	年少	年中	年長	全体
・園まで迎えに行くのが大変だった	0	0	0	0
・子どもがあまり喜んでいなかった	0	1	0	1
・その他	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0

【9】

ウ 主にどのような理由で利用しましたか。

	年少	年中	年長	全体
㉑ 仕事のため	4	4	4	12
㉒ 用事のため	28	26	35	89
㉓ その他	9	3	9	21
無回答	6	3	1	10

2014年度 関西大学幼稚園 保護者アンケート(初等部関連)結果一覧表

設問		A	B	C	D	無記入	A	B	C	D	無記入
① 高槻ミュージャンパス内の関西大学初等部に関心がありますか。	全体	13.3%	25.4%	35.8%	24.9%	0.6%	8.9%	26.8%	39.3%	25.0%	0.0%
	年少						8.9%	26.8%	39.3%	25.0%	0.0%
	年中						9.8%	33.3%	35.3%	19.6%	2.0%
② 初等部への入学を視野に入れて、関西大学幼稚園への入園を希望しましたか。	全体	6.9%	4.6%	63.6%	24.9%	0.0%	1.8%	7.1%	67.9%	23.2%	0.0%
	年少						1.8%	7.1%	67.9%	23.2%	0.0%
	年中						5.9%	3.9%	64.7%	25.5%	0.0%
③ 初等部に限らず私学の小学校に関心がありますか。	全体	8.7%	27.2%	37.0%	27.2%	0.0%	12.1%	3.0%	59.1%	25.8%	0.0%
	年少						3.6%	26.8%	44.6%	25.0%	0.0%
	年中						11.8%	23.5%	43.1%	21.6%	0.0%
④ 現在、幼児教室や塾などに通っていますか。	全体	5.8%	13.9%	8.1%	71.7%	0.6%	0.0%	10.7%	10.7%	78.6%	0.0%
	年少						0.0%	10.7%	10.7%	78.6%	0.0%
	年中						2.0%	15.7%	15.7%	66.7%	0.0%
⑤ 在園児保護者対象の入学説明会の時期は適切であると思いますか。	全体	46.8%	47.4%	2.3%	0.0%	3.5%	13.6%	15.2%	0.0%	69.7%	1.5%
	年少						41.1%	53.6%	5.4%	0.0%	0.0%
	年中						51.0%	47.1%	0.0%	0.0%	2.0%
⑥ 本園での、初等部の入学説明会に参加されましたか。	全体	19.7%	79.8%	0.0%	0.0%	0.6%	48.5%	42.4%	1.5%	0.0%	7.6%
	年少						19.6%	78.6%	0.0%	0.0%	1.8%
	年中						17.6%	82.4%	0.0%	0.0%	0.0%
*「参加した」と答えた方にお聞きします。説明内容についてどう思われましたか。	全体	32.4%	52.9%	11.8%	2.9%	0.0%	21.2%	78.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	年少						27.3%	72.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	年中						44.4%	55.6%	0.0%	0.0%	0.0%
⑦ 現在高槻ミュージャンパスにおいて、初等部・中等部・高等部の12年間一貫教育を目指していますが、高槻ミュージャンパスに限らず、幼稚園を含めた一貫教育を望みますか。	全体	4.6%	16.2%	51.4%	25.4%	2.3%	28.6%	35.7%	28.6%	7.1%	0.0%
	年少						3.6%	21.4%	58.9%	16.1%	0.0%
	年中						2.0%	13.7%	52.9%	25.5%	5.9%
年長						7.6%	13.6%	43.9%	33.3%	1.5%	